

「もったいない」をテーマにリレーイベントを実施し、中高年層の関心を高める

## 野幌商店街振興組合

機関名	野幌商店街振興組合		
所在地	北海道江別市野幌町58-1		
電話番号	011-382-3406		
地域概要	(1)管内人口 124千人	(2)管内商店街数 14商店街	
事業の対象となる 商店街の概要	(1)商店街数 1	(2)会員数 60商店	
	(3)空店舗率 5%	(4)大型店空き店舗数 0	
商店街の種類	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街		

### 【事業名と実施年度】

平成16年度 活性化対策事業  
総事業費

・イベントの開催  
・まちづくり学校事業の実施  
6,330千円

### 【事業実施内容】

#### 1. 背景

江別市は石狩平野の中央部に位置し、平坦な地勢で豊かな自然環境に恵まれている。総面積は187.57平方キロメートルであり、札幌市、北広島市、岩見沢市、当別町、南幌町、栗沢町、新篠津村、北村と隣接している。江別市内を北海道縦貫自動車道と国道12号が横断している。

野幌商店街がある江別市野幌町は、札幌のベッドタウンである。札幌駅から電車で10分の位置に野幌駅があり、大型商業施設が林立する札幌から客を逆流させる物販店舗の成功は至難である。野幌では今後、団塊世代退職者で都市生活をよく知るヤングシルバー層が増えると見込んでいる。

今後はヤングシルバー層をメインターゲットとし、物販中心からサービスやシステムの提供を重視したメニューを揃えることで、ヤングシルバー層の需要に対応し、財力獲得に繋げる予定である。商店街の活動や情報拠点の重要性を再認識し、魅力ある商店街形成と集客力向上を目的とし、以下の事業に取り組むこととなった。



江別市の位置図（江別商工会議所HPより）

## 2. 事業内容

事業内容としては、野幌商店街の店舗軒先を活用した「まごころ市」や、市民が思い出の品を持ち寄って展示する「もったいない博覧会」等のイベント開催、まちづくり学校事業がある。

### (1) 各種イベントの実施

#### ①「まごころ市」(商店街軒先ジャック)の開催

広く市民に呼びかけ、手作り商品やリサイクル創作品を商店街内で販売する「まごころ市」を実施した。市民が野幌商店街の店舗軒先を借り受け、簡易店舗を設置するところから、「商店街軒先ジャック」とも呼ばれている。

手作り商品やリサイクル作品の販売だけでなく、軽食やラーメンの食堂を設置し、簡易店舗をくまなく回るスタンプラリーも実施した。特設会場では、「野幌今昔物語」と題し、野幌の昔からの写真を一堂に展示した。

手作り商品は、「作って売る側」と「買う側」に親密なコミュニケーションを育む効果があり、いつもと違う商店街の光景に足を止める人が多く見られた。

- ・第1回 平成16年7月3日(参加店舗数27店)
- ・第2回 平成16年9月26日(参加店舗数19店)



まごころ市の様子

#### ②「もったいない博覧会」の開催(平成16年11月27日～29日)

市民の思い出の品を展示する「もったいない博覧会」を商店街内の特設会場で開催した。個人が所有する昔ながらの生活用具などが埋もれたままになっているのは「もったいない」との考えで、今回企画した。行商用の薬箱や湯たんぽ、商店街の理容店で長年愛用されたハサミ、祖父の代から家にあった双眼鏡など約40点を展示した。展示会場ではクイズ形式のアンケートを実施し、展示古物の値段鑑定を行った。

会場では、地域の主婦によるラーメン屋と、地域の子供・学生によるカレーライス屋を簡易食堂として設置し、古着をリサイクル活用しミニ着物等に作り変えた「縁側サミットワークショップ」や、市内の名産品の特売会も併せて行った。



「もったいない博覧会」の様子



「縁側サミットワークショップ」の様子

## ③「もったいない雛祭り」の実施（平成17年2月25日～27日）

家で眠っていたひな人形を商店街店舗のショーウィンドーに飾り、商店街の雰囲気作りを図った。ひな人形の収集は商店街内を回覧して呼びかけ、北海道新聞江別版でも市民に協力を呼びかけた。

半世紀近い歴史があるひな人形から手作りの作品まで、どれも思い入れの深いひな人形が集まり、持ち主が商店街を訪れるなど一定の集客効果があった。



「もったいない雛祭り」の様子

## (2) まちづくり学校事業の実施

「防犯」をテーマにしたまちづくり学校として、防犯講習会「地域安全マップづくり」を開催した。講師からどんな場所に危険が潜んでいるかの説明を受けた後、地図とカメラを片手に実際に町内を歩いて自分の目で街の安全性を確認し、安全マップを作成した。

まちづくり学校事業では、「防災」、「高齢者問題」といったテーマをすでに取り扱っており、過去に学習したテーマは他の自治体に「出前学校」を実施している。

## ①まちづくり学校

平成17年 2月17日 防犯講習会

## ②出前学校

平成16年 12月12日 福祉出前講座（札幌市手稲区）

平成17年 2月13日 防災出前講座（岩見沢市）

平成17年 2月14日 防災出前講座（札幌市南区）



「まちづくり学校」の様子

## 【 効 果 】

## 1. 来街者の行動

様々な事業実施を通じて、市民の活動意欲を受け止め、商店街を舞台とした「市民のまちづくり活動」を進めることができた。活性化の担い手として参加した市民各層と、商店街組織・店主との連携が強化された。

## 2. 商店街の組織

「もったいない」というテーマをきっかけに、「防災」、「防犯」、「高齢者」という商店街の今後の取り組み方向を明らかにした。今後は単なるイベント事業の実施というレベルに留まらず、高齢者のセカンドライフ支援や、子育て支援、防災・防犯対策支援に力を入れ、商店街が市民に必要な存在となることを目指していく。

## 【 課 題 ・ 反 省 点 】

### 1. 人的体制

近隣型商店街が、自力の体制・人材のみで様々な活性化活動を行うことは困難であり、今後事業を発展させるためには、事務局等を担う人材の確保が特に重要となる。

現時点では、北海道大学大学院卒業生や札幌学院大学助教授達が半ボランティアワーカーとして事務局に参加しており、事業拡大への人的体制の目処がついているものの、今後のプロジェクトの中で経済的に支えるシステムの構築が必要である。

### 2. 事業費の確保

事業を行うには「継続性」と「採算性」を重視することが求められる。必要な人材・資源を確保するためには、必要な収益を確保する事業への取り組みが求められ、経済的な継続力が問われる。

## 【 事 業 の 実 施 ポ イ ン ト 】

「活性化とは何か」をよく考えて取り組む必要がある。現在は過去と違いモノが売れない時代である。「モノを売るために人を集めたいから、イベントや販促事業を行う」、「他の地区の商店街でチャレンジショップ事業を行ったから、我が商店街でも実施する」という姿勢ではナンセンスである。

モノの売り手として商店街が市民に必要とされていない時代だからこそ、どうすれば市民にとって商店街が必要視されるのかを考えるべきではないか。

## 【 関 連 U R L 】

野幌商店街振興組合 <http://www.nopporosyoutengai.com/>